

Keio University Shonan Fujisawa Campus 2027

慶應義塾大学 湘南藤沢キャンパス

総合政策学部／環境情報学部



あなたたちが、 未来を切り拓くのです。

Learning is Never Passive at SFC

総合政策学部・環境情報学部が追求する教育は、
「問題が与えられ、正解を教わる」のではなく、
「何が問題なのかを自ら考え、解決する方法を創造し、実践する」
（「問題発見・解決型」）というものです。
なぜなら、現実社会に存在する多くの問題は、
一つの学問（例えば経済学、医学といったもの）だけでは
解決困難なものだからです。
総合政策学部・環境情報学部は、分野を横断した
「問題発見・解決型」の学びで、未来を創造する
問題解決のプロフェッショナルを育成するキャンパスです。



Interview



SFC の学生
https://www.sfc.keio.ac.jp/
magazine/students/

さまざまなバックグラウンドや、多彩なアイデアを持つ若者が集まるSFC。
刺激の混ざり合う環境と行動力で、自分のアイデアを具現化し、社会に実装していく学生たちを紹介。

※所属と学年は2024または2025年度の取材当時の学年です。

躍動するSFCの学生



韓国文化との出会いから、 自由な知の冒険へ

- #言語教育 #インテンシブ
- #韓国研究 #海外研修
- #コミュニケーション



倉守 俊輔 Shunsuke Kuramori
総合政策学部2年
(東京都・芝高等学校 出身)

本当に軽い気持ちから、朝鮮語のインテンシブコースを選択しました。苦戦しながらコースを修了後、参加した3週間の短期海外研修が楽しくて本格的に韓国文化の研究を始めました。研究の目的は、日韓の外国語学習を比較すること。教育政策、歴史、文化などを踏まえ、お互いの言語に対する関心や学習目的の違いを明らかにします。日韓の今後を担う若者たちに、もっと相互の言語に関心を持ってもらうのも目標のひとつです。研究助成に採択していただき再びソウルを訪ね、漢陽大学の仲間たちと旧交を温めました。豊富な言語カリキュラムはSFCの強みで、集中的に学べるインテンシブコースは特に魅力的。朝鮮語だけでなく、フランス語の授業や手話サークルでもさまざまな気づきが得られました。今後もさまざまな言語やコミュニケーション分野へ学びを深めていきます。

計量経済学と高齢者ケアを 最新のAI技術で活用

- #AI #高齢者ケア #計量経済学
- #国際比較 #アプリ開発
- #早期学位取得



王 思涵 Sihan Wang
総合政策学部2年

SFCを志望した理由は、ひとつの分野に絞らずに学べる環境だから。急速に変化する社会の複雑な問題を解決するには、多角的な視点と実践に根ざした「実践知」が必要です。高校時代からAIに関心を抱き、現在は高齢者の話し相手になれるアプリの開発に取り組んでいます。また学部の卒業プロジェクトでは計量経済学の手法を活用し、AI技術が生産効率に与える影響について研究をまとめます。このような研究を進める過程では、助成制度を活用することで大規模な外部調査や国際比較研究にも取り組めました。SFCは先生との距離が近く、研究の初期段階から相談して自分のアイデアを発展できます。多様な背景を持った学生同士の議論からは、常に新しい視点が得られます。現在2年生ですが、「学部・大学院修士4年一貫教育プログラム」での早期学位取得を目指しています。

故郷の遊水地で、 環境保護と防災を両立

- #グリーンインフラ #Eco-DRR
- #防災 #フィールドワーク
- #分野横断



中嶋 陽大 Hinata Nakajima
環境情報学部2年
(埼玉県・開智未来高等学校 出身)

実家から徒歩5分の渡良瀬遊水地で、小学生時代から環境保全活動に参加してきました。活動中に出会った「グリーンインフラ」や「生態系減災」の考え方を学ぶため、SFCに入学しました。一ノ瀬友博研究会では先輩や同期の仲間にも恵まれ、フィールドワークの現場で互いに学びあっています。研究のテーマは、渡良瀬遊水地における治水機能と生物多様性保全が両立できるような掘削計画を提案すること。植生調査やドローンによる環境リモートセンシングなどを活用しながら、掘削の方法や掘削地の管理方法を評価します。SFCの研究室では優秀な同期たちと高めあい、先輩方から研究の基本を学び、先生方からもたくさんのチャンスをいただけます。総合政策学部と環境情報学部で分かれていても、関心分野が重なれば誰とでも交流できるのがSFCの良いところです。

遺伝子の神秘と ディベートのパワー

- #生物学 #ゲノム編集
- #先端研究 #英語ディベート
- #法曹志望 #文理融合



久代 夏実 Natsumi Kushiro
環境情報学部3年
(米国・Henry J. Kaiser High School 出身)

入学当初から脳科学や生物学に傾倒し、黒田裕樹研究会に入りました。遺伝子組換えを伴わない「Target-ACE」によるゲノム編集技法の研究には、学問的な知識だけでなく職人芸のような顕微注入の技術も必要です。実験で扱う分子は、目に見えないほど小さな存在。日常とはまったく異なる小宇宙に、研究でしか出会えないようなロマンを感じています。ゲノム編集に没頭しながら、まったく異なる分野とも出会いました。英語ディベートのサークル活動をきっかけに、法曹の道を志すことにしたのです。未知の分野でも、SFCなら「まずはやってみよう」というスタンスで自由に挑戦できます。驚くほどユニークな学びの場があふれているSFCのキャンパスで、すべての過程を楽しみながら新しい発見を目指しています。

実践知と理論の両輪で、 地域コミュニティを知り、 考え、未来に繋ぐ

- #地域コミュニティ #まちづくり
- #実践知 #Uターン #地域文化



金久保 友菜 Yuna Kanakubo
総合政策学部4年
(大阪府・大阪女学院高等学校 出身)

実践知と理論の両輪で、地域コミュニティを知り、考え、未来に繋ぐ。地域コミュニティ、まちづくり、実践知、Uターン、地域文化。

芸術表現と人間社会の 関わりをもっと豊かに

- #未知の音楽 #演劇
- #表現活動 #実験



松田 蓮 Ren Matsuda
環境情報学部3年
(新潟県・新潟県立新潟南高等学校 出身)

芸術表現と人間社会の関わりをもっと豊かに。未知の音楽、演劇、表現活動、実験。

高齢者を見守り 「痛み」に気づく対話ロボット

- #ロボット #高齢化社会
- #コミュニケーション #社会実装



島田 愛里 Airi Shimada
総合政策学部3年
(神奈川県・横浜雙葉高等学校 出身)

高齢者を見守り「痛み」に気づく対話ロボット。ロボット、高齢化社会、コミュニケーション、社会実装。

データの精度を高めた 意欲的な研究へ

- #神経科学 #学際的な学び
- #学会発表 #研究助成



関 碧生 Aoi Seki
環境情報学部3年
(兵庫県・関西学院高等部 出身)

データの精度を高めた意欲的な研究へ。神経科学、学際的な学び、学会発表、研究助成。

学問分野の領域を超えて、 現実の世界と向き合う

総合政策学部長
加茂 具樹



政策を考える。そのための教育と研究に取り組む総合政策学部は、創設以来30年の実践をつうじて、確信していることが一つあります。それは、社会の秩序というものは変化するものであり、現実の世界に存在する問題を解決するための「政策を考える」学問も変化が求められる、ということです。いま、これまで当然とされていた価値観が流動しています。私たちが直面している問題の多くは、既存の解決方法を受け入れず、新しい思考を要求しています。現実の世界に存在する問題は、いずれも領域横断的です。そうだとすれば、学際的な領域に踏み込む学問をつうじてこそ、政策を考える力を養うことができます。これまでの学問は、とにかく深く、深く究めていくことが重要でした。もちろん、物事を深く探求することは必要です。しかし、それだけでは問題の発見すら覚束ません。そもそも、今注目している問題が、本当の問題ではないかもしれないのです。政策を考えるとは、現実の世界と向き合うことです。

日本、そして世界を変えていく 強い意志を持つ学生を育む

総合政策学部が取り扱う「政策」とは、政府が行うものだけではありません。英語のpolicyが企業の方策や個人の指針を指すように、政策は広く我々が現実と向き合う際に必要となるものです。そして、政策を考えるということは、単に問題を発見し、提言するだけではなく、主体的に、能動的に物事に取り組むことです。私たちは、総合政策という学問をつうじて、未来を見通す展望力、状況を捉える分析力、政策を設計する構想力、政策の意義を訴える説得力、政策を実施する実行力とともに、それらの力を総合する力を備えた学生を育てるのです。自ら実践し、日本、そして世界を変えていく意気込みを持つ学生の育成と、日本のみならず、グローバルな人的ネットワークの構築を総合政策学部は目指します。

不確実性の高い 時代の先導者たらん

環境情報学部長
一ノ瀬 友博



環境情報学部では、1990年の開設当初からインターネットをインフラとして整備し、その技術開発と普及を牽引してきました。しかし、それから30数年後、ほぼ一人一台の小型コンピュータ(スマートフォン)を持ち、SNSで情報が瞬時に世界を駆けめぐり時代が到来することを、先頭を走っていた先輩たちですら想像していなかったかもしれません。2019年末から世界を席卷したCOVID-19は、私たちの生活を激変させました。近年、私たちを取り巻く環境の変化は速く、予測が困難で不確実性が高くなっており、そのような状況をVUCA (volatility, uncertainty, complexity, ambiguity)の頭文字をとった造語)と呼ばれるようになっており、私たちはVUCAの時代を生きているのです。急激な温暖化や生物多様性損失といった地球環境問題は私たちの将来に暗い影を落とす一方で、AIやデジタル技術などの新たな技術は私たちが想像もしなかったことを実現します。

学問分野を横断する「学際的な学び」が、 変化に対応できる力を養う

地球の長い歴史の中で、数々の生物は私たちの想像を超える環境変化の影響を受けてきました。生き残ってきた種あるいはその子孫は、弱肉強食という言葉に象徴されるような競争に打ち勝ってきたというよりは、「環境の変化に柔軟に適應する力」を発揮してきたのです。環境情報学部において養われる学びこそは、この変化に対応できる力だと考えています。私たちの考える環境情報学は、「環境」と「情報」という言葉に留まらず、「先端情報システム」、「先端領域デザイン」、「先端生命科学」、「環境デザイン」、「人間環境科学」という5つの領域から構成されている学際的な学問分野です。環境情報学部は、先を見通せない時代を生き抜き、新たな価値と未来を創造する先導者を生み出します。



Academics

総合政策学部 環境情報学部

分野を超えた学びの往来が
問題発見・解決に導く創造性を刺激する

総合政策学部

Faculty of Policy Management

未来を切り拓くための政策を考える

大きく流動するグローバル社会に生きる私たちは、既存の解決方法を受け入れず、新しい思考を要求する問題群と向き合っています。そもそも現実社会の問題群は特定の学問領域の内側に立ち現れるわけではありません。問題解決のための有効な政策的判断を導くためには、学際的、領域横断的な視点が必要です。総合政策学部は、政策を「人間が何らかの行動をするために選択し、決断すること」と捉え、社会的コミットメントと実践を通じて知を形成してゆくという「実践知」の考え方を掲げ、イノベティブな政策を生み出す力を涵養し、よりよい日本と世界を創造する志のあるリーダーを育てます。



アドミッションポリシー、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーはこちら



国際戦略の分野

International Strategy

国際社会にはいま協調と対立の気運とが併存しています。世界をグローバル、リージョナル、ナショナルな視点から複眼的に捉え、多様な主体に焦点をあてた国際戦略とガバナンスのあり方について考えます。

複雑化する世界を捉える

グローバルに展開する政治・経済・社会現象を幅広く分析し、紛争と協調、成長と分配、統治と参加、技術革新の影響など、多角的な視点から世界を捉え、ガバナンスのあり方を追求します。

リージョナル・ストラテジー

グローバル化の進展によって、地域のあり方が問われています。東アジア、欧州、米州、中東、アフリカなど、世界各地域でグローバル化とそれへの抵抗が相克するメカニズムを考えます。

国境を越える問題への取り組み

戦争、貧困といった「脅威・欠乏からの自由」を確保し、安全・安心を実現するために何ができるのか、国際レベル、国家レベルの政策に加え、個人及びコミュニティのあり方を研究します。

外交・安全保障

東アジアは緊張の度合いを高めています。国際協力をとなくれば平和を達成できるというシナリオは現実味を失っています。いかにして、この地域における緊張を軽減できるかを総合的に考えていきます。



言語文化とコミュニケーションの分野

Language, Culture, and Communication

言語は人々をつなぎ、文化を生み出します。言語の文化は、人間同士を結ぶコミュニケーションによって培われます。このような言語文化とコミュニケーションの視座から、世界のさまざまな現象・問題を考えます。

世界を理解し、人々に発信する言語

従来の語学に留まらず、言語を通して世界の思想や文化、人々の生活について理解を深めます。また、高度に言語を運用できるプロフェッショナルとして、グローバルなコミュニケーションを行える能力を培います。

言語教育、言語政策

言語文化やコミュニケーションの問題について、第二言語習得論や学習環境デザインなどの観点から探求します。また、そのような言語教育上の研究を、多文化共生を目指す言語政策へと結びつけて発展させていきます。

言語そのものと世界・文化の理解との関わり

言語にはどのような働きがあり、その言語を使って私たちはどのように文化的世界と、そして人々と関わっているのか。この問題について、理論言語学や社会言語学、文学・物語などの角度から取り組みます。

政治・社会における言語コミュニケーション

言語コミュニケーションには、その時々々の社会や政治の問題が映し出されます。国内の使用言語をめぐる葛藤や、宗教と社会の関係、越境体験などです。これらの問題をさまざまなアプローチを通して考察します。



社会イノベーションと経営・組織の分野

Social Innovation, Management, and Organizations

スタートアップや老舗企業、NPO/NGO、政府機関等が、新しい発想と方法による課題解決を目指す社会イノベーションに取り組んでいます。研究と実践の融合の中から、「社会的な成果」と「経済的な成果」を追求する新たな方策を学びます。

経営戦略とスタートアップ

事業のスタートアップやベンチャーの成功には、ミッションの明確化、深い経営知識、迅速で的確な実行力が必要で、社会性も求められます。激動する環境において、これらを成し遂げるこれからの経営戦略を探究します。

組織マネジメントと経営情報システム

あらゆる組織活動においてその担い手も顧客も多様な個人です。新しい時代のライフスタイルや顧客ニーズ、キャリアパス、リーダーシップ、組織文化の理解を深め、マーケティング、組織デザイン、人材開発等の発展を考えます。

ソーシャルビジネス・NPO/NGO

社会課題の解決に取り組むソーシャルビジネスやNPO/NGOの歴史と現状を理解し、今後の新しい展開を構想します。社会起業家に求められる要素、組織や活動の方法、政策の考え方を実践的に身につけていきます。

情報社会のコミュニティデザイン

コミュニティや組織のガバナンスやプラットフォームのあり方を考えます。現代に求められる「安心・安全」「持続可能性」「社会的包摂」の実現方策など、マクロとミクロの視点から新しい社会のデザインに挑みます。



政策デザインの分野

Policy Design

変化を続ける政治・経済・社会的環境に適応し、毎日をより良いものにする手段として政策を広く捉えます。政府やさまざまな主体が参加して政策をデザインし、国際競争力強化や地方創生に繋げる方法と概念を学びます。

政策研究の方法

政策研究は、理念や構想、政策立案および制度設計、政策実施から評価に至る一連の過程から構成されます。社会で起きている問題の本質を解きほぐし、解決策を探るための政策研究の方法を定性、定量、混合手法を横断しつつ身につけていきます。

経済と財政

国や自治体の政策を立案する上で、経済と財政は根幹となる部分です。厳しい財政状況という現実を踏まえ、実社会の問題解決に直結する経済分析に取り組み、理解を深化して現実的な政策に結びつけていきます。

政策立案と立法

技術革新、ダイバーシティの広がり、ボーダレス化に即した法制度や政策立案が求められるなか、SFCの強みを活かして、技術や社会環境の変化までも視野に入れた、持続可能な社会につながる具体的な政策立案や法制度について学びます。



総合政策学の方法論の分野

Methodologies in Policy Management Studies

総合政策学部で強調されてきたのは複数の分野を学び、新しい問題解決の方法を切り拓くことでした。現在は、そうした「分野の掛け算」に加えて、必要に応じて新たな方法を学び取る「方法の足し算」へ歩を進めています。

総合政策学の方法を学ぶ

総合政策学は、世界を認識するための認識科学を前提に、目的の実現に向けて仕組みのデザインをよりよく行う設計科学を志向しています。そのために目的に合わせて複合的に研究の方法を学び、組み合わせる手法を身につけます。

視点と価値観を共有する

具体的な方法にくわえて、視点や価値観を交わすことも問題解決に向けた研究と実践に欠かせません。講義はもちろん、このキャンパスでは多様な視点と価値観が共有され、研究の大きな基盤となっています。

認識科学から設計科学へ

設計科学を志向すると、よりリアルな認識科学が求められます。そのためにインタビューやフィールドワークといった定性的研究、データサイエンスや社会実験といった定量的研究、さらには両者を組み合わせた混合研究の方法を学びます。

研究と実践を融合して社会を変えていく

研究の成果を生かすためには実践が欠かせません。研究会やプロジェクトでフィールドに出て現実の課題に取り組み、先輩にお話を伺い、その学びを還元させていく。そうした研究と実践の融合の循環で社会を変えていきます。



環境情報学部

Faculty of Environment and Information Studies

「環境と情報の世紀」 における グローバルリーダー

近年私たちを取り巻く環境の変化は速く、予測が困難で不確実性が高いVUCAの時代と呼ばれています。環境情報学部では最先端のサイエンス、テクノロジー、デザインを駆使し、柔軟に人文・社会科学と融合することによって、地球、自然、生命、人間、社会を理解し、未解決の問題に取り組み、解決策を創造します。学問分野を横断した学びにより変化に対応できる力を養い、先を見通せない時代を生き抜き、未来を創造する先導者を生み出します。



アドミッションポリシー、
ディプロマポリシー、
カリキュラムポリシーは
こちら



先端情報システムの分野

Advanced
Information Systems

コンピュータやネットワークはその存在を主張せず、情報システムは水や空気のように日常に溶け込み、我々の生活をさまざまな形で支援する、そのような先端情報システムを創造し、諸問題に挑みます。

インターネットシステム

社会活動や生活の安全・安心・快適を支えるインターネットやモバイル技術について、実際のネットワークを運用しながら実践的に研究します。

ユビキタス情報システム

AIを活用したセンシング技術やデータ処理技術等の高度化、ロボティクスや自動運転、ドローン利用システム等の実現など、情報の力で人や街を拡張する新しいユビキタスコンピューティングを研究します。

計算基盤システム

先端情報システムの基盤を支えるさまざまなシステムソフトウェアや量子コンピューティングをはじめとする新しい計算基盤システムについて研究し、それらを創出・運用できる技術者集団を育成します。

知識情報システム

人の体から宇宙まで、さまざまな対象から得られる超大規模データをリアルタイムに処理して新たな知を創造し、発展的に共有・抽出・検索・予測するサービスの基盤技術を研究します。



先端領域デザインの分野

Advanced
Design Studies

まだ確固たる名称のない、未知なるデザイン・研究領域(=X-Design)の開拓にチャレンジします。異端(eXtreme)かつ実験的(eXperimental)に、領域を横断・乗算(Crossing.X)し、真の自己表現(eXpression)を行ない、未来の地球・社会・文化のために貢献します。

デジタル・ファブリケーション/ アルゴリズム・デザイン

デジタル・ファブリケーションや3D/4Dプリンティング、コンピュータ・アルゴリズムを駆使して植物のように建築を育てたり、未知なるモノづくり領域の開拓に挑戦します。

美術・ランドスケープ・ コミュニケーション

幾何学や美術、環境デザインや地図表現、歴史や地域景観、場づくりやコミュニケーションについて探究し、未知なる次の建築・都市・景観・場づくりをデザインすることに挑戦します。

アート・サイエンス・ パフォーマンス

自らの直感に基づく芸術的な活動、実直なデータを収集し客観的な分析を中心とする科学的な活動を超越的に融合し、音楽や映像などの分野で、唯一無二の自己表現・パフォーマンスを探究します。

X-シティへの展開

Xデザインの精神や技法を応用し、都市や地域の新たなコンセプトを提唱し、実際に実践を通じて具現化します。



先端生命科学の分野

Advanced Biosciences

SFCでは、医・薬・理・工・農・情報・政策を融合した世界最先端の生命科学を展開しています。分野にとらわれず、あらゆる学問を総動員して生命のしくみを解明し、健康・医療・食品・環境分野に貢献します。

先端健康科学

未来の健康長寿社会に貢献するために、最先端テクノロジーと健康政策などの社会科学を駆使して、文理融合の斬新な切り口で挑戦しています。

システム生物学

ゲノムやメタボロームなどのオミクス解析を実施し、それらの情報をコンピューター上で統合させ、複雑な生命をシステムとして理解しています。SFCはシステム生物学の世界的パイオニアです。

システム医科学

システム生物学を医学・薬学に応用し、分子生物学、情報科学、分析化学などを融合した新しい切り口で病気のメカニズムの解明や治療法の開発に貢献します。

環境生命科学

「地球の役に立つ」微生物や分子を探索しています。また、特定の環境下に存在する生物を遺伝子レベルで網羅的にモニタリングするなど、環境学にも大きく貢献しています。



環境デザインの分野

Environmental Design

建築・都市・地域レベルから地球レベルにわたるスケールの異なる幅広い視野で、持続可能な未来の環境デザインに関して、データ・エビデンスベースの実践的な教育・研究に取り組んでいます。

建築環境デザイン

建築空間のデザイン、構造のデザイン、生産手法などの建築の空間に関わる環境を意識し、実社会に展開するための構築方法やデザイン手法、IT技術の応用などのデザインについて実践的に取り組んでいます。一級建築士試験を受験できる授業体系となっています。

地域環境デザイン

リモートセンシング、IoTによるフィールドセンシング、地理情報システム、気象・気候解析などの空間情報技術やデータ分析技術を研究・開発・活用して、災害リスク適応や地域活性化の要請を捉えた脱炭素型社会・持続可能なまち・地域デザインの支援に取り組んでいます。

都市環境デザイン

都市の歴史や文化・文脈を読み解き、まちづくり、地方地域再生、生態環境や防災システムなどの視点も加え、都市や地方の環境の創造と保全を通じた安全で豊かなハードとソフトの環境デザイン研究と実践に取り組んでいます。

地球環境デザイン

地球規模の技術革新や国際的な協働関係の構築などを通じて、人新世時代に突入した人類社会が直面する気候変動への対応、災害リスク軽減と持続可能な発展(SDGs)といった緊急な課題に対する戦略的な解決策を考え、実践的に取り組んでいます。



人間環境科学の分野

Human Environment

人間が身体や言語を駆使しながら環境と相互作用するプロセスと変化を、個人、コミュニティ、社会レベルで捉え、考察します。それにより、人間の認知や行動への深い理解と、健康でウェルビーイングな社会の実現を目指します。

言語の認知と学習

人間の言葉の理解や獲得における認知のメカニズムに、言語学・心理学・神経科学・デザイン学など多方面からアプローチし、状況や場の影響も考慮した人間の「知」を探究します。

メンタルヘルスサイエンス

人間の生理的・心理的な状態や諸機能を臨床心理・精神保健・数理モデルなど多様な手法を用いて探究するとともに、環境の改善を提案することで、人々のウェルビーイングの維持・向上を目指します。

身体動作の理解と学び

身体動作の制御や学習の原理を科学的に理解するために、生体力学や脳神経科学などからアプローチし、スポーツや芸術活動などの技能の向上や、失われた身体機能の回復のために役立っています。

社会・コミュニティと ウェルビーイング

コミュニティや社会が複雑化・流動化していく中で、人間はどのように変化していくのか、多種多様な手段でその相互作用を捉えて考察し、健康・教育・文化の発展を促します。



Curriculum

学生もひとりの研究者 「研究会」を軸に 自由にカスタムする学び

総合政策学部・環境情報学部での学びの中心は「研究会」です。「研究会」も豊富な学問分野の科目も、必要な時に学べる「自由でユニークなカリキュラム体系」こそが、「学際的な学び」と「問題発見・解決」を叶えます。



WHAT

「研究会」は総合政策学部・環境情報学部における学びの中心

両学部の研究会の多くは「基礎積み上げ型」のいわゆる“ゼミ”ではありません。まず問題を発見し、その解決にアプローチするための研究に取り組みながら必要な基礎知識や手法を適宜修得していくことを重視します。研究会の一部では、企業との共同研究や官公庁からの委託研究など、実践的な研究活動が行われています。それらに参加して実社会の問題に取り組んだり、自ら研究会でリサーチや制作を通して高度な専門性を身につけ、自らの「未来創造の成果」として、あるいは社会へ提示する「自分自身のプロポーザル」として、卒業プロジェクトを作成します。

WHY

新たな知を創造し
「未来の先導者」を輩出するために

先端研究には新たなアイデアが不可欠です。そのため、両学部では、自ら発見した課題を、既存の学問領域を横断的に活用した独自の метод論をもって解決するスタンスを重視し、それを体現する研究会を学びの中心に据えています。そして、それぞれの「自らの研究」を支えるため、基盤科目（共通）、先端科目のいずれも学部や学年を問わず各自のタイミングに合わせて履修が可能です。一人ひとりが独自のやり方で研究に取り組み、未来に向かって新たな知の創造に邁進できる仕組みを用意しています。

HOW

フレキシブルな履修システム

研究会は「1年から所属」「掛けもち」「学期ごとの変更」も。

学生が能動的に自らの研究をつくり上げるために、複数の研究会に所属したり、学期ごとに研究会を変更することも可能です。また、本人の能力次第で1年生からでも研究会に所属できます。

学年に縛られない履修

「自分のテーマを見定めるため、広い分野の科目を履修したい」「4年生で新しい分野を学ぶ必要性を感じ、基礎から履修したい」など、その時に合わせた科目や研究会の履修が可能です。

ユニークな学び方「特プロ」「海外研修」「フィールドワーク」「インターンシップ」

春夏の休校期間に実施される「特別研究プロジェクト」や国外各地で学ぶ「海外研修」を科目として履修することができます。その他にも「フィールドワーク」や「インターンシップ」などキャンパスの外の学習機会を広く提供しています。

学生は研究パートナー

「学生は研究パートナー」という文化が根付いています。新たな知の創造に向けた先端的な研究活動を行う両学部では、教員と学生が一体となって研究に取り組みます。教員の経験やサポートと、学生の発想やパワーの両方が先端研究には欠かせないからです。研究とは、誰かに教わるものではなく自らの手で実現されていくもの。ここでは学生がそれぞれ研究に没頭しています。学生も含めた「研究者」たちが互いを刺激し合う両学部のスタイルが、新しい知を創造するのです。教員も学生も半分は教えて半分は学び続ける存在であるという、福澤諭吉の「半学半教」の精神をまさに体現しています。

Be the Architect of Your Learning

学年不問だから基礎から応用まで自分のペースで学びを構築

知の土台となる基盤科目や、研究会や卒業プロジェクトへ導く先端科目を、在学の全期間にフラットに設置。学年にかかわらず、学びたい科目を学びたいときに履修できます。



一部の科目はオンライン形式で開講しています。オンライン授業は最大60単位まで卒業条件(124単位)に含めることができます。
※2026年1月時点

1 学年

大学生活に慣れるとともに基礎的な力を養成し、今後の学習の基礎となる力をつける

2 学年

関心を持った領域の学びを広げ、深めつつ、自分に合った研究会を探し、参加する

3 学年

最終学年に取り組む「卒業プロジェクト」のテーマを決め、完成に向けて共に進めるメンターを見つける

4 学年

学部での研究の集大成である「卒業プロジェクト」に2学期(1年間)かけて取り組む

大学院政策・メディア研究科

修士課程

博士課程

自由に選んで専門性を高めるための科目群

基盤科目(共通) / 先端科目

先端科目

「基盤」となる科目を履修しながら、「研究会」「卒業プロジェクト」へと導く科目です。「基盤科目」よりも具体的に研究に接近し、「研究会」「卒業プロジェクト」の前提となる専門的・先端的な科目によって構成されています。

パターンランゲージ リフレクティブデザイン 公共政策
アルゴリズムデザイン ベンチャー経営論 多文化コミュニケーション
ゲノム分子生物学 新事業創造ワークショップ 開発とローカリズム
外交と戦略 量子経済学 オープンデザイン戦略
地球システム 国際企業論 環境ヘルスサイエンス アナログ・デジタル電子回路基礎
芸術と科学 都市と環境 パブリックマネジメント
感覚の生理と心理 モノ創り実験工房 地域と社会 視覚メディア論
脳と行動 ヒューマンセキュリティ 日本の近現代
コーポレートガバナンス 生命現象と現実社会の比較論 量子情報処理 経営分析

地球環境技術論 イメージと精神分析
リーガルマインド 言語とヒューマニティ
ヒューマンコンピュータインタラクション スポーツエンジニアリング
NPOの設立と経営 宗教と現代社会 認知行動論
まちづくり論 デザインスタジオ 地方自治論
安全保障政策 メタボローム解析実習 パーソナルプレイスデザイン
組織戦略 グローバルガバナンス
音楽と脳 生命と知能の進化
政策過程論 感情と行動のコンピューティング
ほか400科目以上

8つのプログラム

- GR: グローバル・ガバナンスとリージョナル・ストラテジー
- HC: ヒューマニティーズとコミュニケーション
- PS: 政策形成とソーシャルイノベーション
- CB: 認知・意味編成モデルと身体スキル
- EG: 環境デザイン・ガバナンス
- XD: エクス・デザイン
- CI: サイバーインフォマティクス
- BI: 先端生命科学

基盤科目

学部を問わず、全ての学生が学ぶべき「基盤」を培うための科目です。入学後の早い段階から「研究会」や「卒業プロジェクト」に必要な言語・思考法・技法などを意識しながら履修計画を立てられるように、学びを支援します。「先端科目」「研究会」へと研究を深めるための基盤として、総合政策学部・環境情報学部の幅広い学問分野の研究科目群から自由に選択できます。

総合講座科目

SFCでの学びを見渡す

総合政策学

環境情報学

ウェルネス科目

心身の健康を養う

心身ウェルネス 体育1~5

言語コミュニケーション科目

多言語を学び世界への「窓」を開く

英語 朝鮮語 中国語 マレー・インドネシア語 アラビア語 ドイツ語
フランス語 スペイン語 日本語 ロシア語 イタリア語

情報技術基礎科目

ICTを使いこなすスキルを磨く

情報基礎1・2 オブジェクト指向プログラミング基礎
システムプログラミング基礎 スクリプト言語プログラミング基礎

データサイエンス科目

データを駆使し分析する基礎を学ぶ

統計基礎 線形代数 微分・積分 CGと数学
医療・健康のデータサイエンス 国際社会のデータサイエンス ほか

研究会

150+

P.15-16 研究会一覧

研究会

両学部における活動の中心で「卒業プロジェクト」に向けて、教員と学生が共に考えながら多様な課題に取り組んでいきます。1年次は履修許可が得られた場合、各学期1科目まで「研究会」の履修が可能です。

卒業プロジェクト

卒業プロジェクト

「研究会」を中心とする両学部での学習の成果として、すべての学生は、卒業までに、論文の執筆や作品の制作などを行います。

3.5年早期卒業制度

9月入学者の4月就職、4月入学者の海外大学院進学などの支援が目的。また、大学院政策・メディア研究科の早期修了と併せることにより、5年間で学部卒業+修士課程修了も可能です。

修士研究会

修士論文

博士論文

卒業・進級要件はこちら



<https://www.sfc.keio.ac.jp/academics/pmei/curriculum/feature.html>

ウェブ上のシラバスサイトで開講するすべての授業科目の内容をご覧ください。



<https://gslbs.keio.jp/pub-syllabus/search>

選択必修で知の技法の基礎を養うための科目群



150+ Seminars "kenkyukai"

Explore a Theme That Calls to You

バリエーション豊富な研究会で自分だけのテーマを深く究める

150を超える、総合政策学部・環境情報学部の研究会一覧です（2026年2月末現在）。

「この分野を学びたい!」と思えば、所属学部に限らない研究が叶います。

一つの研究会に没頭するもよし、研究会の掛け合わせで新しい発見をするもよし。

あなたらしい研究生活を実現しましょう。

研究会一覧

| 担当教員 | 研究会 |
|--------------|--|
| 秋山 美紀 | ●「ウェルビーイングに関する研究と実践」 ●ヘルスコミュニケーションの実践 |
| 安宅 和人 | ●人類サバイバル時代における価値デザイン |
| 荒川 和晴 | ●ゲノム生物学（先端生命科学） |
| アルマンズール、アフマド | ●イスラーム研究 |
| 飯盛 義徳 | ●地域における効果的なプラットフォーム設計 |
| 石川 初 | ●地上学への研究 |
| 石川 光泰 | ●サイバー防犯教育等研究会 |
| 石淵 理恵子 | ●「ことばと身体、芸術と身体」 ●ことばとジェンダー、芸術とジェンダー |
| 一ノ瀬 友博 | ●ランドスケープ研究 ●ネイチャーポジティブ |
| 井庭 崇 | ●漫画のつくりかた研究プロジェクト（漫画デザイン・パターンの作成と実践） ●よりよい未来に向けた物語制作の実践コミュニティ（よい実践を促す漫画、アニメ、映画…の探究的なつくり手の集い） |
| 植原 啓介 | ●ネットワーク運用と実空間インターネット ●水保研究 |
| 牛山 潤一 | ●身体運動の神経科学 ～脳と身体をひとつの"システム"として捉える～ |
| 内山 映子 | ●実践から育む多様性のパートナーシップ ●SFCと住民でつくる地域の居場所 |
| 海野 敦史 | ●情報通信法研究会 |
| ヴ, レ タオ チ | ●選択分析：政策と日常生活 |
| 大木 聖子 | ●防災社会デザイン研究会 |
| 仰木 裕嗣 | ●(A)3Dプリンティング技術のスポーツ・福祉・医療に向けた応用 ●(B)リンクセグメントモデル・粘弾性モデル等によるヒトや動物の運動解析 ●(C)スポーツおよびリハビリテーションの遠隔コーチングに関する技術開発 |
| 大越 匡 | ●Beyond Computing時代の「新しいWellbeing」を創出するUbiquitous Computing / Ubiquitous AI基盤技術 ●Beyond Computing時代の「新しいWellbeing」を創出するUbiquitous Computing / Ubiquitous AIアプリケーション技術 |
| 大前 学 | ●スマートモビリティ～車やバスの自動運転技術を学ぼう～ ●スマートモビリティ～自動運転車や自動運転バスを創ろう～ |

| 担当教員 | 研究会 |
|-------------|--|
| 小熊 英二 | ●現代日本の社会学プラス古典 ●近代社会研究 |
| 加藤 貴昭 | ●ヒューマンパフォーマンス |
| 加藤 文俊 | ●場のチカラ：まちに還すコミュニケーション |
| 蟹江 憲史 | ●xSDG |
| 鎌田 華乃子 | ●社会変化のためのリーダーシップ理論、実践、教育 ●社会運動とソーシャルアクションの研究 |
| 加茂 具樹 | ●現代中国政治外交と国際政治 |
| 川口 航史 | ●政治学文献講読 ●政治学英語文献講読 |
| 川島 英之 | ●データプラットフォーム研究会 |
| 北川 敬三 | ●戦略とリーダーシップ研究会 |
| 木原 盾 | ●人口・社会動態の探究（基礎編） ●人口・社会動態の探究（発展編） |
| 國枝 孝弘 | ●臨床と教育 |
| 黒田 裕樹 | ●言語と思想、言語と芸術 ●ポティブランニング解析 ●発生・生殖工学の応用 |
| 河野 暢明 | ●合成生物学（先端生命科学） |
| 琴坂 将広 | ●経営研究：優れた経営の実践と普遍的知見の探求から近未来のあるべき経営を探る ●Management studies as a field of social science |
| 小林 博人 | ●とりあえずやってみるパーティシパトリー建築・都市・コミュニティデザイン |
| 齊藤 邦史 | ●法律による問題解決の実践 |
| 堺 正太郎 | ●惑星圏科学研究会 |
| 佐藤 豪竜 | ●経済学とデータで読み解く現代社会のリアル（応用ミクロ計量経済学の実証分析） |
| サントーン、ベトルス | ●教育を通じたインドネシアのコミュニティのエンパワーメント |
| シュッターデー、アキル | ●都市空間 |
| 篠原 舟吾 | ●行政研究のフロンティア |
| 島津 明人 | ●メンタルヘルスの研究と実践 |
| 清水 たくみ | ●未来の組織を探究する |
| 清水 達郎 | ●数学理論を追体験する ●現象と関わる数学 |
| 清水 唯一朗 | ●日本政治外交研究（JPD）ベーシック&アドバンストー日本政治外交をよみかぶる |
| 清水 亮 | ●オーラル・ヒストリー —「聞く力」で未知を拓く— ●フィールドワーク経験を書く |

| 担当教員 | 研究会 |
|------------|---|
| ショウ, ラジブ | ●アジアにおける環境、防災とコミュニティ開発 |
| 白井 さゆり | ●グローバル経済問題研究会 |
| 白井 裕子 | ●フォレスト・サイエンス・アンド・エンジニアリング |
| 神成 淳司 | ●食とフードサイエンス |
| 新谷 ロクサナ | ●Bilingualism and Heritage Languages |
| 新保 史生 | ●情報法研究会 |
| 神保 謙 | ●国際安全保障とグローバルガバナンス |
| 杉本 昌弘 | ●医療データサイエンス（先端生命科学） |
| 鈴木 治夫 | ●微生物ゲノム学（先端生命科学）/環境バイオインフォマティクス（先端生命科学） |
| 諏訪 正樹 | ●身体と環境にむきあい、知をデザインする生活 |
| 徐 旻廷 | ●言語から読み解く朝鮮半島社会 |
| 高木 丈也 | ●朝鮮の文化・社会 ●言語研究のインターフェース |
| 高汐 一紀 | ●ソーシャルクラウドロボティクス ー共生・協働するロボットから共に発達するロボットへー |
| 武田 圭史 | ●メディア表現（映像、光、音響等）、生成AI、UAV / ドローン、VR / AR / XR等先端技術の実践的応用 |
| 田島 英一 | ●生活世界から考える公共性 |
| 田中 浩一郎 | ●田中浩一郎研究会（現代中東政治研究） |
| 田中 浩也 | ●ハーベスト・シティ（資源収獲都市） |
| 玉村 雅敏 | ●ソーシャルイノベーション：「ソーシャルマーケティングと価値共創」&「ソーシャル・プロデュースと共育」 |
| 千田 健太 | ●パフォーマンス評価、トレーニング科学 |
| 鶴岡 路人 | ●ヨーロッパ国際関係と国際安全保障 ●International relations, international security and contemporary European politics. |
| 鄭 浩淵 | ●中国地域社会論：その歴史と現在 ●中国地域社会論：社会調査と資料分析 |
| 東海林 祐子 | ●ライフスキルコーチング ●スポーツコミュニティ |
| 富樫 あゆみ | ●韓国のソフトパワー戦略と外交安全保障政策 |
| 伴野 崇生 | ●日本における「難民・移民」と多文化共生 |
| トレース、ジョナサン | ●Second Language Teaching & Learning |
| 内藤 泰宏 | ●E-Cell プロジェクト（先端生命科学） ●生命進化のシンギュラリティ（先端生命科学） |
| 中川 エリカ | ●新しい建築の発明・発見 |
| 中澤 仁 | ●街と情報 |
| 仲谷 正史 | ●多感覚協応と触覚 |
| 中西 泰人 | ●新たなテクノロジーと経験のデザイン |
| 中瀬 優子 | ●第二言語習得研究、異文化間コミュニケーションと外国語教育 |
| 中室 牧子 | ●経済学とデータで読み解く現代社会のリアル（応用ミクロ計量経済学の実証分析） |
| 鳴川 肇 | ●デザインとジオメトリー |
| 西川 葉澄 | ●外国語学習のための「学びのコミュニティ」作りと複言語主義 ●コピーとオリジナリティ |
| 野中 葉 | ●現代東南アジア研究 ●ムスリム共生プロジェクト |
| 長谷川 福造 | ●行政に関する法システムと理論 |
| 服部 隆志 | ●原論文から解き明かす生成AI ●ウェブアプリケーションシステム |
| 林 公輔 | ●回復 |
| 巴山 竜来 | ●織物デザイン ●数学からつくる |
| 馬場 わかな | ●近代家族を再考する ●ドイツ語圏地域研究 |

| 担当教員 | 研究会 |
|-------------|--|
| バンミーター、ロドニー | ●量子コンピューター、量子インターネット、量子教育を含む、量子情報処理のためのシステム ●分散型のストレージシステムとネットワークアーキテクチャー |
| 平山 明由 | ●生体代謝プロファイリング |
| 廣瀬 陽子 | ●地域研究とアカデミック・ディシプリンの対話と融合の模索 |
| 福島 康仁 | ●国際関係論 ●宇宙政策 |
| 藤井 進也 | ●音楽神経科学（NeuroMusic） ●エクス・ミュージック（x-Music） |
| 藤田 護 | ●南からの思考——スペイン語圏の社会と文化 ●SFC Kotan——アイヌ語とアイヌ語口承文学を学ぶ |
| 藤田 元信 | ●科学技術と戦略的意図決定 |
| 古谷 知之 | ●データサイエンスと社会（1） ●データサイエンスと社会（2） |
| ヘニグマン、デイビッド | ●サブカルチャー、芸術運動、または音楽シーンを調査する研究プロジェクト |
| 保田 隆明 | ●コーポレートファイナンス |
| 細谷 浩美 | ●1) 勤勉な都市（The Industrious City） ●2) 都市と地方の空間構造に関する研究 ●3) 人と自然、生活と生産の関係に関する研究 |
| マイヤー、アンドレアス | ●ドイツ語圏とヨーロッパ諸国の発展 |
| 松川 昌平 | ●アルゴリズムック・デザイン |
| 水鳥 寿思 | ●スポーツパフォーマンス |
| 三次 仁 | ●応用ワイヤレス研究会 |
| 宮垣 元 | ●ソーシャルセクターとヒューマンサービスの社会学 |
| 宮代 康丈 | ●政治哲学（基礎） ●現代の政治哲学・倫理学（理論と応用） |
| 宮本 大輔 | ●中国語の社会言語学的研究 ●中国語の教授法およびデジタル学習環境の構築 |
| 宮本 佳明 | ●気象学研究会 |
| 森 さち子 | ●間主観性 |
| 矢作 尚久 | ●ヘルスケアシステムデザイン ●アントレプレナーシップと経営 |
| 山田 彬亮 | ●理論言語学実践 |
| 山田 貴子 | ●言語学×デジタルヒューマニティーズ×フィールドワーク ●共創のための場づくり / "わたし"を起点としたプロジェクトの実践 / 社会イノベーションの創出 |
| 山本 薫 | ●アラブ文化研究会 ●中東社会文化論 |
| 横山 大輔 | ●都市・地域計画研究会 |
| 脇田 玲 | ●宇宙とアート |
| 渡辺 将人 | ●アメリカ政治外交研究：デモクラシー、メディア、選挙 |
| 渡辺 光博 | ●ヘルスサイエンス（健康・幸福な街づくり） ●ヘルスサイエンス（健康科学） |
| 渡辺 靖 | ●ソフトパワー研究（基礎編） ●ソフトパワー研究（上級編） |
| 和田 龍磨 | ●国際経済学を学ぶ ●計量経済分析 |
| 和田 直樹 | ●SFC キャンパスのサステナビリティ、その他都市・農村の環境問題の解決策 |
| 藁谷 郁美 | ●1) ことばとメディア ●2) 外国語教育をデザインする（ツールや教材の作成・運用・評価など） |

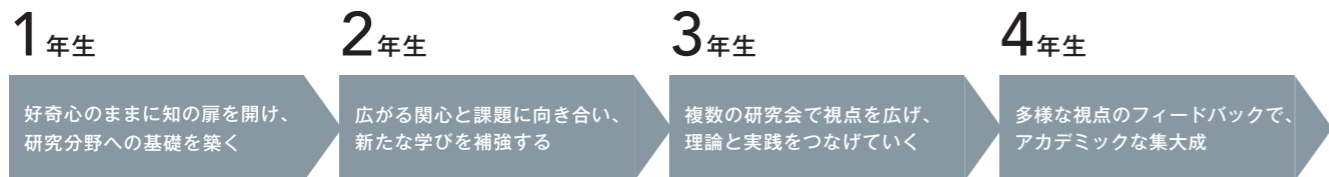
自由に探求できた、私だけの学びの組み合わせ

学びが進んで初めて気づく必要な学問・研究分野も、総合政策学部・環境情報学部のカリキュラムなら自由に組み合わせられた履修が可能です。学部も分野も横断できるため、ある科目の履修をつうじて思いもよらない視点や学びのセレンディピティ(幸運な偶然)を得ることも。研究会で学びを縦に深め、場合によっては複数の研究会で異なる軸足を作り、科目では学びを横に広げ、かつ研究をサポートする知識を補っていくことで、あなたの学びの意欲をあと押しします。



「地域コミュニティ」を軸に、多角的に人間の営みを捉える

金久保 友菜 Yuna Kanakubo
総合政策学部4年



先輩のおすすめも聞いて、好奇心の赴くままに授業を選択。大学生生活の序盤で身につけたい知識や能力を貪欲に吸収しました。地方を拠点とする研究スタイルに憧れ、秋学期から長谷部葉子研究会に入りました。

ソーシャルマーケティングの考え方をプロジェクトに活かすため、玉村雅敏研究会にも所属。また行政とのよりよい協働について悩んでいたことから、不足していた行政システムの知識をあらためて授業で補いました。

研究の中心となる八戸でのプロジェクトが本格的に始動。より多くの人と共に活動を推進するため、PR戦略などのスキルも習得しました。馬場わかな研究会にも所属し、かつて暮らしたドイツの歴史や街づくりを学びました。

地方での活動を続けながら、アカデミックな方向にシフトチェンジ。清水亮研究会で卒業プロジェクトを支援してもらいました。さまざまな分野に詳しい学生からフィードバックが得られ、SFCの魅力を日々感じています。

研究会 —自分らしいテーマを深める—

| | 1年春 | 1年秋 | 2年春 | 2年秋 | 3年春 | 3年秋 | 4年 |
|---------|-----|---|----------------------------|-----|---------------------|-----|--|
| 研究会検討期間 | | 長谷部葉子研究会(「教育」から取り込むソーシャルトランスフォーメーションのカタチ—地域との協働で構築する関係性のサステナビリティ) | | | | | 清水亮研究会(フィールドワーク法、アカデミック・ライティング) |
| | | | 玉村雅敏研究会(ソーシャルマーケティングと協働共創) | | 馬場わかな研究会(ドイツ語圏地域研究) | | 卒業プロジェクト「地域祭礼におけるよそ者の受容プロセスに関するエスノグラフィ—八戸三社大祭の山車組 下大工町附祭若者連中への大学生の新規参入を事例に—」 |

科目 —多眼思考で知の地平を広げる—

| | | | | | | |
|------------------------|-------------------|--------------------|------------------------|----------------|---------------------------|-----------|
| スチューデントビルドキャンパス(SBC)入門 | データ・ドリブンの社会の創発と戦略 | リーダーシップ開発のためのコーチング | スチューデントビルドキャンパス(SBC)実践 | 多文化社会論 | 社会的組織の経営(ヘルスケア) | フィールドワーク法 |
| 知識編纂の技法-1 | 企業経営 | パブリックマネジメント | 政策形成とメディア | 行政法 | 地域産学連携実践演習<農から「生きる」を構築する> | 地方自治論 |
| | | ソーシャルマーケティング | | パブリックリレーションズ戦略 | ファイナンス論 | 現代政治論 |
| | | ソーシャルビジネスプランニング | | | | |
| | | 日本の行政機構 | | | | |

研究の背骨を支えてきた科目群。高校時代から思い描いていた「地域コミュニティづくり」というテーマを念頭に、興味のある様々な科目を選択しました。学びを重ねることで、自分がやりたいことの解像度も上がってきます。

研究活動で生じた気づきや問題意識に応える科目群。社会をめぐる問題は複雑なので、研究を進めながら自分に不足している知識やスキルを意識できるようになります。分野の広がりや、新しい視点をもたらしてくれます。

アカデミックな卒業プロジェクトに向けての科目群。大学時代の研究成果をまとめるには、学術的な知見にもとづいた思考のプロセスを提示しなければなりません。基礎的な知識を底上げする科目の履修が力になりました。

*実際に履修した科目のうちの一部です。 *所属と学年は取材当時の学年です。

広く、深く、最先端の研究はここから生まれる

SFCには、幅広い分野の先端研究を実践する教授陣や、産官学および国内外の関連活動と協調関係を育みながら研究活動を行う「SFC研究所」があります。意欲ある学生は教員のもと、実践的な研究の現場で社会課題に取り組んでいます。



幅広い研究分野の教員

SFCでは、他に例を見ないほど多様な研究分野を扱っています。さまざまな研究領域をカバーする教授陣のごく一部ではありますが、S-faceでご覧いただくことができます。

S-face
<https://sface.sfc.keio.ac.jp>

最先端の研究にふれる「SFC研究所」

SFC研究所は「先端的研究の遂行と研究成果の社会への還元」を目的とした、SFCの2研究科・3学部の附属組織です。意欲のある学生は教員のもとで、外部からの訪問研究者らとともに、最先端の研究活動にも参加することができます。

SFCの地域連携：キャンパスのある神奈川県藤沢市をはじめとした近隣自治体の他、全国各地の地方自治体と未来を共創する研究開発に取り組んでいます。

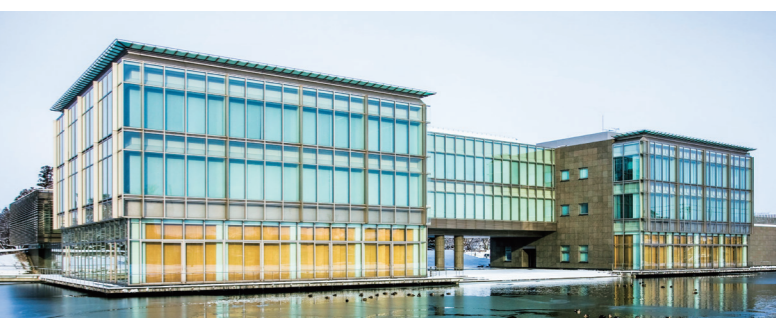
SFC研究所
<https://www.kri.sfc.keio.ac.jp>



SFCの研究助成制度

SFCではキャンパス独自に多種多様な助成制度を設けて学生の学習・研究活動を支援しています。学部在籍時より助成をうけて研究活動を行うことができるのは、慶應義塾はもとより国内大学の中でも例を見ないSFCの大きな特徴です。SFCの教育の特長「学部生から主体的な研究ができる環境」を体現した制度です。

SFCの研究助成
https://www.sfc.keio.ac.jp/studentlife/research_grants/



鶴岡タウンキャンパス「先端生命科学研究所」

山形県鶴岡市にある、慶應義塾大学鶴岡タウンキャンパス(TTKO)には、先端生命科学研究所が設置されており、メタボローム解析をはじめとする最先端の生命科学が展開されています。総合政策学部・環境情報学部の学生はTTCKでも授業を履修できます。「バイオキャン」プログラムでは、2学期間(または1学期間)TTCKに滞在し、最先端の実験機器を実際に使いながら生命科学の基礎を学ぶことができます。

世界を広げ、理解を深める 異文化交流



SFCは開設以来、多様な言語教育プログラムを展開し、海外からの学生に対応した9月入学・卒業制度をいち早く導入するなど、グローバルな人材育成と研究活動を重視してきました。異文化交流の豊かな体験は、目の前の問題をグローバルに捉え解決へと導く、多面的な視点や柔軟な思考力を養います。

SFCの多言語教育・海外研修制度

言語の学びは、視野を広げる窓

総合政策学部・環境情報学部では11言語を履修できます。これらの言語教育は教養という名でおこなわれる知識レベルの科目ではなく、自己を発信できる運用能力を身につけることを学習目標とした実践的科目群であり、体系化されたコースを全語種が共通して構築しています。言語を学ぶことは価値観・世界観の違いの理解につながり、未知の世界が広がります。

海外研修制度

SFCでは、夏季・春季休校の期間に7つの国と地域で独自の海外研修も実施。毎年150名程度の学生が参加するこの海外研修は、海外の大学における講義やディスカッションなど、質の高い学習活動を通して言語運用能力の向上を目指すことが可能です。もちろん研修成果は単位に認定されます。

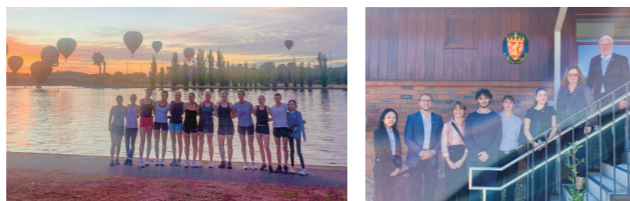
留学

海外で暮らし、学び、解像度を上げる

慶應義塾大学には、世界の150を超える大学との間で実施している交換留学制度があります。世界トップレベルの大学で1年間を過ごす経験は、SFCでの学びをさらに深めてくれます。単位認定制度・学期間算入制度を使って4年間で卒業することも可能です。

交換留学先の例：

カリフォルニア大学、ブラウン大学、ジョージタウン大学、カーネギーメロン大学、パリ政治学院、HEC経営大学院、SOAS、エジンバラ大学、ボン大学、ジュネーブ大学、北京大学、清華大学、延世大学、ソウル国立大学、シンガポール国立大学、シドニー大学、オーストラリア国立大学 など



海外留学の奨学金

慶應義塾では、海外留学の奨学金として、以下を設けています。

- ・慶應義塾大学交換留学生（派遣）奨学金
- ・慶應義塾創立150年記念奨学金 海外学習支援 等

また、国、地方自治体、さまざまな団体が、学生の海外留学を支援するための奨学金を多数実施しています。

11言語

マレー・インドネシア語 / アラビア語 / スペイン語 / 朝鮮語 / ドイツ語 / フランス語 / 中国語 / 英語 / 日本語 / ロシア語 / イタリア語

2025年度海外研修実績

| 言語 | 研修機関 | 人数 |
|-------------|--|----|
| アラビア語 | Center for Cross Cultural Learning (CCCL)、Noon Center | 32 |
| マレー・インドネシア語 | サティア・ワチャナ・クリスチャン大学 | 33 |
| 朝鮮語 | 漢陽大学校国際教育院 | 28 |
| 中国語 | 北京大学国際合作部留学生事務室、国立台湾師範大学 国語教学センター | 14 |
| ドイツ語 | ミュンヘン大学、ゲッティンゲン大学、ドレーズデン工科大学、オッフェンブルク大学、フライブルク大学、トリア大学、ミュンスター大学、ワイマール大学、フライブルク大学 | 10 |
| スペイン語 | Bolivar Education Spanish School、Colegio Delibes、TANDEM San Sebastián | 21 |
| フランス語 | アリアンス・フランセーズ・ノルマンディー、CAVILAM / アリアンス・フランセーズ、アリアンス・フランセーズ・エクスマルセイユ・プロヴァンス | 23 |

GIGAプログラム

多国籍な仲間たちと、日常的に英語でコミュニケーション

SFCには、英語で学位を取得できるGIGA (Global Information and Governance Academic) プログラムがあり、約40の国と地域から集った優秀な留学生・帰国生が学んでいます。2025年度は170以上の科目がGIGA科目として開講されました。両学部の学生は、学年、入試形態等にかかわらず、日本語でも英語 (GIGA科目) でも自由に履修でき、日本にいながら英語で学ぶことも可能です。さらに、所定の要件を満たすことによりサティファイケートを取得することができます。



- SFCでは、日本語・英語の両言語で授業が開講され、世界中から集まる学生たちが共に学ぶ環境が整っています。この多様性が、「日本にいながらの国際交流」を実現しています。
- GIGAプログラムで提供される授業は基礎的な科目に限らず、先端科目や研究会など、専門的な科目も含まれます。SFCの日々には、留学生と共に最先端の知見をぶつけ合い、英語でのディスカッションやプレゼンテーションを通じてグローバルな発信力・対話力を磨く機会が溢れています。

VOICE



森 美郷 Misato Mori 総合政策学部3年

分野も言語も、欲張りに。横断的な学びを支えるGIGAの環境

国際関係や経営など、特定の分野に絞らず横断的に学びたいという思いからSFCを志望しました。一般選抜で入学後、自身の英語力を磨くためにGIGA科目の履修を開始。海外在住経験はあるものの、最初は英語での授業に不安もありました。先生や周りの友人がサポートしてくれる環境で着実にステップアップし、現在では言語の壁を越えて興味のある授業を幅広く受講しています。最大の魅力は、SFCの中で留学さながらの環境に身を置けること。授業やディスカッションはもちろんのこと、GIGAプログラムで出会ったさまざまなバックグラウンドの友人との交流を通じて、実践的な「活きた英語」を習得することができます。勇気を持って一歩踏み出したことで、私の学びの可能性は大きく広がりました。

VOICE



ブロイヤー マクシミリアン P. Maximilian Breuer Faculty of Policy Management 2nd year

SFC is the perfect place if you are looking for a truly international campus with a touch of Japanese culture.

My initial plan was to go to University in Germany and then come to Japan. However, when I did some research, I found Keio SFC. I was fascinated from the first second. Even though I was not 100% confident in my Japanese then, SFC stood out as an international place where fluent Japanese is optional from the start. SFC can be international but can also be Japanese. The idea of connecting with Japanese students, learning about a new culture, broadening my horizons, and getting an education in a safe and economically stable country helped me with my decision. SFC will be the perfect place if you are looking for an international and Japanese campus.



「暮らす」

H (イータ) ヴィレッジ

知的没入を支える

グローバルな

国際学生寮

化学反応を引き起こす空間

あたらしくて古い

Hヴィレッジは、寝食をともにしながら学び、自由闊達に語らう場所です。書を読むこと、学ぶことを日常の中心に据えて暮らす。じつは、そのスタイルは、とくにあたらしいものではありません。「福翁自伝」を読むと、随所から当時の「塾風」が伝わってきます。160年前の書生たちは、とにかくよく勉強したようです。いつ、どこにいても学ぼうとする。知的な没入は、時間が経つのを忘れさせるものです。だからこそ、学びと暮らしを切り離すことなく、近づけておくことに意味があります。慶應義塾の学生寮で、キャンパスのなかにあるのはHヴィレッジだけです。まさに、暮らしのなかに「塾」があります。それは、「実学」の精神を具現化した姿だといえるでしょう。



H (イータ) ヴィレッジ
<https://h-village.sfc.keio.ac.jp/>



「創る」

β (ベータ) ヴィレッジ

未来のキャンパスは

自分たちで創る

滞在型教育・研究施設

βヴィレッジは、未完成を連想するギリシャ文字「β」を冠し、永遠に完成させない、変わり続けるキャンパスの一部として名づけられました。2015年には、学生・教職員・卒業生による「SBC (Student Built Campus)」が発足し、SBC合同研究会の学生と教員が中心となって「未来のキャンパスは自分たちで創る」をコンセプトに掲げ、新しいキャンパス作りに取り組んでいます。このプロジェクトを通じて、デザインや用途が異なる全7棟の施設群を建設し、「計画」「設計」「施工」「運用・検証」「解体」までを自分たちで企画・運営することを目指しています。このプロジェクトは建物のハード面にとどまらず、そこで行われる教育プログラムや運用システムといったソフト面の開発にも取り組むことで、今までにない新しい大学のあり方を構想します。



β (ベータ) ヴィレッジ
<https://b-village.sfc.keio.ac.jp/>



2023年3月に開寮した、慶應義塾唯一のオンキャンパス国際学生寮です。多くの寮室は、国内生と留学生の5名1ユニットであり、日本全国・世界各地から集まった多様な価値観を持つ学生たちが「暮らしながら学ぶ、学びながら暮らす」を実践しています。



全7棟の個性豊かな施設からなる、学生や教員、研究者が寝食をともにしながら研究に打ち込むための滞在型教育研究施設です。研究会の活動や、ものづくり、さまざまな教育研究活動に活用されています。



Graduate

自分だけのテーマが必ず見つかる場所

秋山 優介 Yusuke Akiyama

Percify 株式会社 ※所属は取材当時
フリーランス(経営・人事コンサルティング)
2014年 環境情報学部 卒業

現在の仕事は、人材関連企業の経営です。大学卒業後、複数の人材サービス企業での勤務を経て独立しました。現在は多様な背景の方々とも協働し、社会課題の解決にも取り組んでいます。

浪人時代の猛勉強を経てSFCに合格し、最初の2年間はシラバスから面白そうな授業を貪欲に取っていました。普通の大学にはない実践的な学びから、今の自分の価値観が形作られてきた実感があります。

さまざまな学びを通して、自分がコミュニケーションやコラボレーションの分野に惹かれていることがわかりました。この時期の関心が自分なりのテーマを形成し、卒業後のキャリアパスを切り拓いてくれました。

仕事に活かされたSFCの探究スタイル

現在取り組んでいる事業開発にも、SFCでの経験は活かされています。お客さまの課題を探し、それを踏まえてアウトプットを出すまでの流れは研究会で学んだもの。「あの時やっておいて本当によかった」と心から思います。

自発的な研究テーマを学生に深めさせてくれるSFCの環境は、人事の視点からも素晴らしいと思っています。本当に関心のあるテーマを見つけた人は、その話をするとときに輝いて見えます。あらゆる業界の企業が、採用時にそのような個性を重視しています。

自分の興味対象がわかっている人に、SFCはぴったりの場所。でもかつての私のように、まだ自分の関心や可能性を知らない人にもおすすめです。なぜならSFCで学んでいけば、いずれ自分のテーマを掘り下げざるを得ない状況になるから。その学びは、卒業後も続く自分だけのテーマとなります。

実社会に息づくSFCスピリッツ

多種多様なキャリアを描く、SFCの卒業生。グローバルに、ローカルに、常に新しい時代を切り拓く感性と心意気で社会を動かしています。



QRコード
SFCウェブサイト「SFCスピリッツ」
多方面で活躍する卒業生のコラムを掲載
https://www.sfc.keio.ac.jp/magazine/alumni_stories/

Scholarship

慶應義塾の多彩な奨学金

奨学金
https://www.sfc.keio.ac.jp/admissions/financial_aid.html



慶應義塾には優秀な学生の支援を目的とした「慶應義塾大学給費奨学金」や経済的困窮者向けの「慶應義塾大学修学支援奨学金」、卒業生からの支援を基にした20以上に及ぶ「指定寄付奨学金」等、学生のニーズに対応する約110種類もの学内奨学金(給付型・返済不要)が用意されています。これらの奨学金は、卒業生や篤志家との強固なつながりによる国内最大規模の奨学金基金を原資とした本学独自のものです。この他にも、学外奨学金(給付型/貸与型)として、100以上に及ぶ「民間団体・地方公共団体奨学金」や、「日本学生支援機構奨学金」などがあり、学生が奨学金を受けるためのサポートを行います。

首都圏以外の日本国内に住む受験生向けの予約型奨学金

- 総環のすゝめ奨学金
AO入試で高い評価を受けた合格者を対象とする奨学金
https://www.sfc.keio.ac.jp/doc/soukannosusume_scholarship.pdf
- 学問のすゝめ奨学金
受験前に採否の結果がわかる、一般選抜受験生向けの奨学金

Entrance exam

未来へのスタートライン

SFCは、AO入試(アドミッションズ・オフィスによる自由応募入試)を国内ではじめて取り入れたキャンパスと言われています。開設時から続くAO入試をはじめ、3種類の入試制度を用意。「SFCで学びたい」という明確な意志を持った多彩な個性に応えます。新たな時代を切り拓くチャレンジは、ここから始まります。

| 入学試験制度一覧 | | | | | | |
|------------------|--|------|------|-----------|------------------|---|
| | 種類 | 4月入学 | 9月入学 | 出願言語 | 選考方法 | お問い合わせ先 |
| 総合政策学部 環境情報学部 | 一般選抜 | ○ | ○ | 日本語 | 筆記試験 | 慶應義塾大学入学センター TEL 03-5427-1566 E-mail admissions@info.keio.ac.jp |
| | 夏秋AO入試・春AO入試 | ○ | ○ | 日本語 英語 | 1次:書類審査 2次:面接 | 慶應義塾大学湘南藤沢事務室アドミッションズ・オフィス TEL 0466-49-3407 E-mail ao-request@sfc.keio.ac.jp |
| | 冬AO入試 (Admissions for the GIGA Program) | ○ | ○ | 英語 | 書類審査 とビデオ審査 | 慶應義塾大学湘南藤沢事務室アドミッションズ・オフィス TEL 0466-49-3407 E-mail ao-overseas@sfc.keio.ac.jp |

卒業生の進路

卒業後の進路は、企業への就職が全体の約7割、1~2割が進学、1~2割はその他の進路となっています。多くの学生が、自身のキャリアを見据えて大手企業への就職など着実な一歩を踏み出す一方で、SFCの特長である進取の気性から、創立当初より起業家を数多く輩出しています。初期の卒業生が起業に携わったIT企業が現在では大手の企業となったケースもある一方、さまざまな社会課題を解決する社会起業家も活躍しています。

●慶應義塾(学部のみ)



●総合政策学部・環境情報学部



■主な就職先(人数順)

アクセンチュア/楽天グループ/電通/三菱UFJ銀行/みずほ証券/サイバーエージェント/ソフトバンク/東京海上日動火災保険/ペイカレント/みずほ銀行/PwCコンサルティング/博報堂/デロイトトーマツコンサルティング/NTTデータグループ/三井住友銀行/三菱UFJ信託銀行/トヨタ自動車/伊藤忠商事/ファーストリテイリング/アマゾンジャパン合同会社/双日/サントリーホールディングス/セガ/日本ビューレット/パナソニック合同会社

■主な進学先

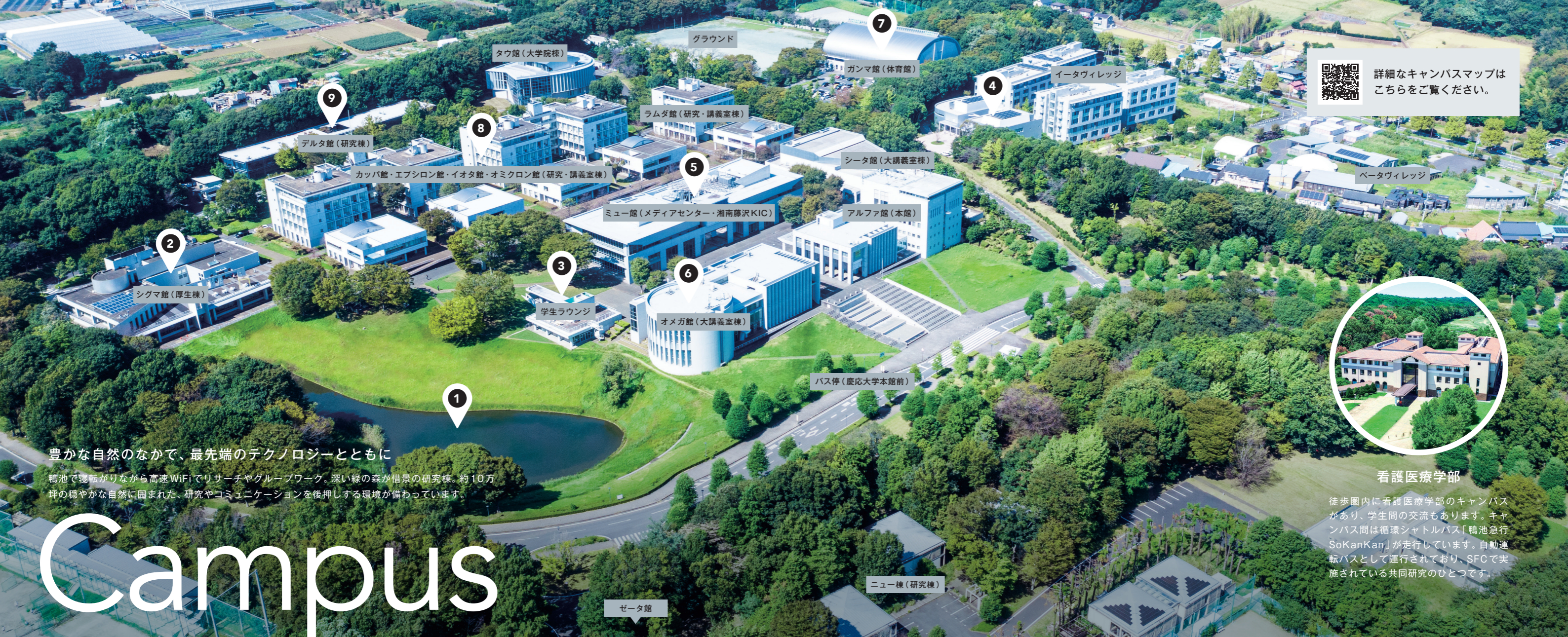
慶應義塾大学(研究科) 84人
その他日本国内の学校等(学部または研究科) 29人
海外大学/大学院 27人
注)SFC CDPオフィス調べ(慶應義塾サイト非公表)

受験生向けイベント

- SFC万学博覧会(オープンキャンパス・ORF)(例年11月頃)
<https://expo.sfc.keio.ac.jp/>
- 未来構想キャンプ(例年7~8月頃)*高1、2対象
<https://www.sfc.keio.ac.jp/admissions/event/camp/>

最新の入学情報については、
下記URLをご参照ください。
<https://www.sfc.keio.ac.jp/admissions/undergraduate/>





詳細なキャンパスマップは
こちらをご覧ください。

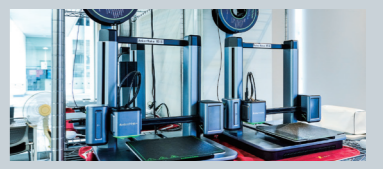


看護医療学部

徒歩圏内に看護医療学部のキャンパスがあり、学生間の交流もあります。キャンパス間は循環シャトルバス「鴨池急行 SoKanKan」が走行しています。自動運転バスとして運行されており、SFCで実施されている共同研究のひとつです。

豊かな自然のなかで、最先端のテクノロジーとともに
鴨池で寝転がりながら高速WiFiでリサーチやグループワーク。深い緑の森が借景の研究棟。約10万坪の穏やかな自然に囲まれた、研究やコミュニケーションを後押しする環境が備わっています。

Campus



1 ガリバー池 (鴨池)

正式名称はガリバー池ですが、鴨池という名で親しまれています。学生たちは池のほとりの芝生でつろぐことを「カモる」と表現しています。

2 学生食堂・鴨池ラウンジ

シグマ館地下に「生協食堂」と個人やグループで自由に使える「鴨池ラウンジ」、地上階にはカフェテリア「レディバード」があります。

2 生協・コンビニエンスストア

シグマ館の地上階に生協売店があり、書籍やOA周辺機器、文具などの販売、また運転免許教習所の手続きもできます。地下には「ローソン」があります。

3 学生ラウンジ・鴨池テラス

ラウンジには「サブウェイ」があり、その屋上は「鴨池テラス」と呼ばれています。朝から夜まで多くの学生が集う、「鴨池」に臨む憩いの空間です。

4 ソルトダイニング(ランチのみ)

オンキャンパス国際学生寮「イータヴィレッジ」の食堂ですが、ランチタイムはどなたでも利用できます。

ファブキャンパス

SFCでは、多彩なファブリケーション機器を分散配置し、キャンパス全体をスマートな「循環型」ファブリケーションの実験場として推進しています。

- メディアセンター：ファブスペース（3Dプリンタ、レーザーカッター、デジタル刺繍マシンなど）
- オミクロン館：IoTデバイス（電子工作・ロボット）
- ベータヴィレッジ：DFF-W（木工の工作施設）、建築、アトリエ



5 湘南藤沢メディアセンター

図書・雑誌・電子資料のほか、ファブスペースや撮影機材、音響・映像編集用機器、スタジオ設備など、さまざまなコンテンツ制作が行える環境を提供しています。

6 大講義室棟

SFCの象徴ともいえる丸いオメガ館と、大きなステージが特徴のシータ館には大講義室があり、SFC生なら誰もが学ぶ場所です。

7 体育館・ジム・グラウンド

ガンマ館1階はウェイトトレーニングができるジムや、柔道場、剣道場など、2階にはアリーナとフィットネスルームがあります。

8 研究・講義室棟

カッパ、エプシロン、イオタ、オミクロン、ラムダの5つの研究・講義室棟は学生と教員が日常的にコミュニケーションを図ることを目的に設計、配置されています。

9 研究棟

キャンパス各所に点在し、それぞれに趣向を凝らした研究棟（デルタ、ゼータ、ニュー）には共同研究室があり、学生は所属する研究室で研究に没頭します。

ACCESS



東京駅から

JR 東海道線 戸塚駅 横浜市営地下鉄ブルーライン 湘南台駅 約 50 分
JR 東海道線 辻堂駅 約 50 分

新宿駅から

小田急線 湘南台駅 約 50 分

横浜駅から

横浜市営地下鉄ブルーライン 湘南台駅 約 40 分
相鉄線 湘南台駅 約 30 分
JR 東海道線 戸塚駅 横浜市営地下鉄ブルーライン 湘南台駅 約 30 分

辻堂駅から

〈バス〉
北口 2 番バス乗り場から神奈中バス
辻 34 系統 慶応大学 辻 35 系統 慶応中高降車場
行きに乗り、「慶応大学」「慶応大学本館前※」まで約 25 分

湘南台駅から

〈バス〉
西口 B 出口から地上に上がり 1 番バス乗り場から神奈中バス
湘 23 系統 慶応大学 湘 24 系統 笹久保経由慶応大学
湘 25 系統 急行・慶応大学 行きに乗り、
「慶応大学」「慶応大学本館前※」まで約 15 分



※休日は「慶応大学」が終点です。

見学をご希望の方

慶應義塾大学湘南藤沢事務室 総務担当
sfc-visiting@sfc.keio.ac.jp

受験生のための KEIO NAVI
<https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/keionavi/>



SFC 公式 SNS



Instagram:
sfc_keio



facebook



X:
KeioSFC



慶應義塾大学 湘南藤沢キャンパス



〒 252-0882 神奈川県藤沢市遠藤 5322
<http://www.sfc.keio.ac.jp/>

SINCE 1990

湘南藤沢キャンパス（総合政策学部・環境情報学部）の開設から 35 年。学生を「未来からの留学生」と呼び、常に新しい時代を切り拓く感性とスピリットを醸成してきました。かつて未来からの留学生だった卒業生たちは、実社会に飛び出した今も、まだ見ぬ世界に向かって歩み続けています。